

平成 24 年度市政懇談会【観光・産業について】

<見出し>

※（かっこ）は懇談会開催日です。開催日順に掲載しています。

- 1 観光と農業を結びつける組織について (6/18)
- 2 人農地プランについて (6/18)
- 3 農地・水保全管理支払交付金の制度について (6/18)
- 4 人農地プランの進め方について (6/18)
- 5 シルバー人材センターの利用について (6/18)
- 6 TPP と農地の集約化について (6/18)
- 7 「地場農産物 PR 事業」について (6/18)
- 8 地元の産物を市内の食堂等で PR して欲しい (6/18)
- 9 地場産の野菜の放射能問題について (6/18)
- 10 「みどりの風」の改修補助について (6/18)
- 11 少子化対策について (6/18)
- 12 ホームページへのリンクについて (7/4)
- 13 石の百年館について (7/4)
- 14 荒町地区の整備について (7/4)
- 15 笠間市の歴史について (7/4)
- 16 菊まつりと空き店舗の活用について (7/4)
- 17 愛宕山の駐車場について (7/4)
- 18 笠間市の観光と宿泊施設について (7/4)
- 19 国道 50 号の大壺について (7/4)
- 20 つつじ公園のつつじについて (7/4)
- 21 桜について (7/4)
- 22 観光客の集客について (7/8)
- 23 農業の法人化について (7/30)
- 24 農業の施策について (7/30)
- 25 兼業農家への支援策について (7/30)
- 26 申請の簡素化について (7/30)
- 27 耕作放棄地の利活用について (7/30)
- 28 耕作放棄地と販売経路について (7/30)
- 29 直売所について (7/30)
- 30 ミニ統計笠間について (7/30)
- 31 栗について (7/30)
- 32 芋ほり体験について (7/30)
- 33 農作物の販売経路について (7/30)
- 35 水戸線の利用拡大について (8/21)
- 36 岩間インター付近の工業地域について (8/21)
- 37 山の荘について (8/21)
- 38 笠間市の観光について (8/21)
- 39 イベント情報について (8/21)
- 40 農業振興地域について (8/21)
- 41 電気の供給について (8/21)
- 42 情報の提供について (8/21)

<内容>

1 観光と農業を結びつける組織について (6/18)

【意見】以前、愛宕山を取り巻く観光農業推進協議会という組織があったが、今後は商工観光等の見識者を入れて再結成してはどうか。

【回答】観光と農業を結びつける方策ですが、愛宕山と限定をしないで、幅を広めて再度研究してみたいと思います。茨城交通で笠間⇄秋葉原間の高速バス運行が始まりました。例えば、農業体験ツアーの臨時便などを募集して笠間市に来てもらうようなことができないかなど、いろいろ考えてみます。

2 人農地プランについて (6/18)

【意見】「人農地プラン」はどの規模で進めていくのか。

【回答】「人農地プラン」は地域をどのように考えるのか、土地改良区で考えるのか、大字で考えるのか、集落で考えるのか、あるいは旧市町で考えるのか、とそれぞれ考え方があると思います。規模については、各地域の方々と話し合いをしながら進めていきます。5年後、10年後、20年後の地域の農業をどうやっていくのかを考えるプランですので、地域の実情に合わせて作っていきたいと思います。

3 農地・水保全管理支払交付金の制度について (6/18)

【意見 1】農地・水保全管理支払交付金は、総額の40パーセント程度の支援金が出るのか。

【回答 1】面積割りに対して、新規の場合は4,400円/10aです。継続の場合は3,280円/10aだったのですが、県と折衝して、ある程度目途がついてきています。確定するまでお待ちください。40%ではありませんので、確定した金額を今は提示できませんが、しばらくお待ちください。

【意見 2】道路をコンクリート整備するような工事でもできるということだが、今、申請すると来年度の工事になってしまうのか。

【回答 2】農地・水保全管理支払交付金については、単年度工事なので、今年度に工事できないというものではありません。

4 人農地プランの進め方について (6/18)

【意見】「人農地プラン」は、市がある程度プランを立てて進めて行くのか。

【回答】基本的には地域で作っていただきます。最初は農地集積をどうするかです。雛形はありますが、担い手となっていくのは、認定農業者の皆さんです。なかなか絵に描いたように進まないとは思いますが、地元の農家の方々にも議論していただかないと先に進まないところがあります。議論する場などは市でもお手伝いをします。まずは皆さんと進めて行きたいと考えています。

5 シルバー人材センターの利用について (6/18)

【意見 1】営農集落がない地域は農業をする若い人がいない。機械でできるものはよいが、助手などが必要なものは、シルバー人材センターに来てもらえないだろうか。

【回答 1】シルバー人材センターに農業分野があるので、頼めば派遣してもらえます。専門的なものや大変なものは難しいと思います。草刈りなどはできると思います。

【意見 2】シルバー人材センターの派遣は2ヶ月待ちで、しかも一日8時間頼むと1万円を超えてしまう。何か対応策はないのか。

【回答 2】シルバー人材センターでも無理、地元でも若い人手がないので無理となると、行政が働きかけをして、耕作放棄地や農家のお手伝いなどの人材を含めた、農業支援のような組織が必要なかなと思っています。例えば、農業者支援の組織を作り、そこに補助金を投入して、農業

者の支援をしていく形も一つだとは思っています。ただ、赤字ではできませんので、今は勉強している最中です。課題はすぐ解決できませんが、いろいろ検討していきたいと思えます。

6 TPP と農地の集約化について (6/18)

【意見 1】 市長は、TPP についてどういう考えをもっているか。

【回答 1】 市の総意と言うわけではなく、市長個人の思いとしては、市場は開かなければならないと思っています。TPP で市場を開いても開かなくても農業に対する支援は必要だと思っています。農業は自然相手のものですので、工業製品とは違います。ですから、税金を投入して農業支援に厚みを加えるべきだと思います。

日本の国内市場は先細りです。笠間市でも合併して 2,700 人減っています。人が減るということは、簡単に言えば、その分だけお米を食べなくなったということです。日本の人口は 30 年後には 1 億人を切るといわれています。市場が縮小していくと農業者の意欲がそがれていきますので、日本の市場が縮小していく以上、海外に市場を求めていかなければならないのではと思っています。そういう意味で市場は開いていくべきという考え方です。国などの行政は今以上の農業支援をしながら、農家を支えていかなければという思いです。

【意見 2】 関税が撤廃された場合、市長は自給率が上がると思うか。

【回答 2】 個人的には自給率は、農林水産省がカロリーベースで 40 パーセントくらいが 10 数パーセントに下がると言っていますが、そんなに下がるとは思っていません。日本人は、自分のところで作ったものを食べるというような発想があると思っています。レストランなどの商業加工食は別として、日本国内の農産物を優先するという方が大多数だと思います。

一つの例として、笠間には石材業者がありますが、国内のみで商売をしていたときは儲かりましたが、韓国や中国に市場を開き、輸入するようになったら、160 軒あった石材業者は 50 軒くらいになりました。確かに減りましたが、ゼロにはなりません。農業についても、市場を開き、今の専業農家が専業として行う部分の市場はあると思います。

【意見 3】 自給率が下がった場合、国力が下がるのではと不安に思っている。

【回答 3】 食糧の安全確保という意味で、ある程度の自給率は確保していかなければならないと思います。面積や自然条件など外国の農業に負けてしまうところは行政が支援していくべきだと思います。

【意見 4】 今の日本の農家は、かなりシェアを兼業農家が占めている。日本の農業を守ってきた兼業農家は今後どうなるのか。

【回答 4】 確かに兼業農家は、田んぼを守ってきています。しかし、今後は難しくてもそこに踏み込んでいかないと農地の集約化はできないと思います。

【意見 5】 耕作放棄地などを基盤整備していくのはどうか。

【回答 5】 そうした山間の耕作放棄地を田んぼに再生する必要があるかという問題はあります。自然を維持する上で、田んぼの機能が必要ならば、稲作をしないまでも、田んぼの維持をすればよいと思います。

7 「地場農産物 PR 事業」について (6/18)

【意見】 「地場農産物 PR 事業」とは具体的にどのような事業なのか。

【回答】 「かさまの粋 秋の陣」という専門業者に笠間の農産物を PR し、取引につなげるイベント等を開催しています。例年、1,2 件の取引が決定します。昨年は決定した取引がありませんでしたので、場所や開催方法など工夫したいと考えています。

8 地元の産物を市内の食堂等でPRして欲しい (6/18)

【意見1】地元でとれたものをレストランや食堂で使用し、PRしてほしい。

【回答1】笠間の農産物を使っているお店は、茨城県陶芸美術館とモン・ラパンです。

また、東京のスワンカフェ銀座店に肉は笠間産物を使っています。現在、野菜もできる限り笠間産物を使っているようにお願いしています。

他にも、一般の方向けに地産地消料理教室を開催し、講師に地元のレストランのシェフを呼んで笠間の農産物のよさを知ってもらう取り組みをしています。

9 地場産の野菜の放射能問題について (6/18)

【意見】地場産の野菜で放射能などの風評被害はなかったのか。

【回答】お茶と原木しいたけと乾しいたけ以外に放射能の問題はありません。風評被害もありましたが、今は落ち着いてきました。

10 「みどりの風」の改修補助について (6/18)

【意見】「みどりの風」は農協で経営しているが、3億円の売り上げがあると聞く。立地条件もいいので、本来なら5億円以上の売り上げが見込めるのではないかと。市が助成して、施設の改修や駐車場の舗装などしてほしい。

【回答】農協の直売所という営利目的の施設ですので、地場農業の振興とはまた違った側面になり、市が施設の整備をすることは難しいです。農家の方が生産を拡大するための支援は、行政でもできると思いますが、直売所の整備は農協で行っていただきたいです。

道の駅を作ったらどうかという意見がありますが、建物をつくることはできても販売するものや販売体制などと総括して考える必要がありますので、難しいところです。

11 少子化対策について (6/18)

【意見1】市は、少子化についてどう考えているか。

【回答1】少子化は、女性の働き方のルールを変えていかななくてはならないと思っています。

子育ての支援は、出会い、結婚、出産、不妊治療、子育て支援、教育と20年くらいかかります。国も地方自治体もいろいろな支援を行っています。笠間市でもワクチン接種の援助や保育料の低減や子育て支援センターの設立などさまざまな支援を行っています。いろいろ支援をしても、一人の女性が産む子どもの数が増えません。

理由の一つとして女性の晩婚化があります。以前は22歳ぐらいで第1子を産んでいましたが、今では30歳を過ぎたりします。そうすると、子どもを産む数は減っていきます。また、結婚して子どもを産むと、大企業は復職支援がありますが、地方の零細企業は産むイコール辞めるという状況で、復帰するときは正社員ではなくパートタイマーでしか働けないという状況です。そういう仕組み自体を変えていかないと少子化を留めることは無理だと思います。日本の伝統的な社会のあり方のいい面を守りながら、一部を変えていく必要があると思っています。

また少子化は、国力の低下にもつながります。現在、中国やインドは活力がありますが、人口が多いからでしょう。人(ひと)イコール力(ちから)です。市も引き続き、少子化対策の支援をしていきます。

【意見2】日本の少子化は1億人を超えてしまったので、国土にあった人口の適正な減少ではないか。

【回答2】学者によっては、1億人くらいが適正ではないかという人もいますが、そうすると一極集中になってしまいます。人口が減少すると日本の経済は落ち込んでいきます。

12 ホームページへのリンクについて (7/4)

【意見】笠間市のホームページに、石材の発破作業と石割の動画を掲載していただけるという話があったが、完成した動画へのリンクをさせて欲しい。

【回答】動画の掲載は市の情報発信には、効果的だと思っていますので、現在進めているところです。動画へのリンクは問題ありません。

13 石の百年館について (7/4)

【意見】石の百年館が閉館してしまったが、笠間市の観光マップにも載っているもので、月に7、8人の観光客が来る。行政でも、貴重な資料がたくさんある石の百年館の維持、復活を考えて欲しい。

【回答】現在の石の百年館の所有者は（株）タカタです。石の百年館を移築するには、かなりの費用がかかってしまうので、石材組合が移転するという事も聞いています。行政がこういった形で支援ができるかはわかりませんが、笠間にしかない施設だと思うので、行政としてできる支援はしていきたいと思います。

14 荒町地区の整備について (7/4)

【意見】門前通り整備計画が進められているが、荒町地区の店舗数が少なくなっているという話を聞く。市で区画整理などをする考えはあるのか。

【回答】今のところ、常夜灯から常陽銀行角のところまでの整備を計画しており、荒町地区の整備は白紙です。また、空き店舗をどう利用するかは、難しいところです。現在、協議に上がっているところを優先的に進めていきたいと思っています。

15 笠間市の歴史について (7/4)

【意見1】子どもたちに、地元の歴史などを学ぶ授業をしてはどうか。

【回答1】合併して7年目になりますが、大人も含めて地元の旧市町のことなら、ある程度知っていますが、合併後の笠間市全体となると把握している方はまだ少ないと思います。子どもたちも同様だと思います。授業の中で笠間市の歴史を勉強したり、笠間市出身の偉人を取り上げたりします。その中で子どもたちの知識が深まっていくと思います。

【意見2】旧笠間では、小学4年生のときに副読本があったが、合併後の新笠間版はあるのか。

【回答2】新笠間の民話の本については、学校で使っています。今年は「笠間の偉人」という副読本を作成中です。

【意見3】地元の子どものための教育に使うのと同時に、観光客にも映像を含めて笠間の歴史を紹介して欲しい。

【回答3】井筒屋の整備計画に、観光客への映像アピールの場としての役割を織り込むことは必要だと思います。何らかの方法で進めていきたいと思っています。

16 菊まつりと空き店舗の活用について (7/4)

【意見1】菊まつり開催期間中の門前通りが空き店舗があり、さびしい感じを受けるので笠間市全体で盛り上げるという工夫が必要だと思う。空き店舗の利活用はできないか。

【回答1】菊まつりににつきましては、行政がリードするというよりも、実行委員会の中でどういった祭りにしていくのかという議論をしていただくことが必要だと思っています。行政が担うところもありますが、すべて行政が主導的にやるものではないと思います。市では今年、菊まつりのコーディネートとして200万円の予算をつけ、ワンパターン化してきた菊まつりの飾りつけについてプロに提案していただこうと思っています。

空き店舗の活用については、菊まつりの1ヶ月だけでも活用できないかと思っています。

【意見2】 個人で直接交渉することは難しいと思うので、市や観光協会や商工会などが橋渡しすれば、スムーズに話が進むのではないかと。

【回答2】 空き家を行政に登録していただいて、借りたいという人とのつなぎ役をしている自治体もあります。空き店舗については、商工会で対応しているそうなので、その制度を利用してもよいかと思えますし、持ち主との直接交渉がしにくいというのであれば、市に相談していただければ仲介します。稲荷神社の前の通りに限らず、友部や岩間の場合も行政に相談してください。

17 愛宕山の駐車場について (7/4)

【意見】 愛宕山の桜まつりの時に駐車場が満車になってしまい、道路が渋滞してしまったので、共有地を利用するなど、周辺整備をして欲しい。

【回答】 今の段階では、愛宕山付近で駐車場を確保できる場所はありません。駐車場を作るとなると山を削るなど、どこかに手を加えて造成する必要がありますので、大がかりなものになってしまうと思います。

笠間市には愛宕山、北山、佐白山がありますが、駐車場だけでなくそれぞれ今後どうしていくのかという将来像を決める必要があると思っています。岩間町時代に、愛宕山を整備してハイキングコースを造りましたが、そういったものが老朽化してきているので、その再整備をして、それ以外の自然はそのまま残すことが愛宕山のよさというのなら、それが一番と思っています。北山はもう少し手を入れた方がよいかと思えますし、佐白山の方向性は決まってきているので、それをどう実現していくかです。今後も勉強していきます。

18 笠間市の観光と宿泊施設について (7/4)

【意見】 これからは、少子化、高齢化で人口減少が進み、観光においても国内での競争は激化するるので、外国からの観光客の誘致が必要だと思う。観光地には宿泊施設が必要で、地元の民間の業者がそういったものを作るのが一番だが、場合によっては、外部からも受け入れる方向性が必要なのではないかと。

【回答】 観光の業種に限らず、国内のマーケットは縮小していくので、海外に広げていくことが必要であると思っています。

笠間の場合は、宿泊客が少ないとはいえ、今までは井筒屋や山の荘で約300人の定員があったので、そういった宿泊客の受入れ施設としての役割は大きかったです。観光地の拠点となる場所に宿泊施設がないことは笠間の観光にとって、致命的だと思っています。市では、井筒屋を買取り、井筒屋の中に宿泊機能を含めたホテルを誘致したいと考えています。行政で経営することはできませんので、民間をどう導入していくか、行政はどんな提示ができるかだと思います。宿泊施設の整備をすることで、笠間の観光が栄えるというわけではありませんが、笠間稲荷神社周辺を観光の拠点としていく必要があると思っています。全体的な人口が縮小していく中で、維持発展しながら笠間に観光客を一人でも多く呼び込むのは大変なことですので、我々としても努力をし、いろいろと提案をいただきながらやっていかなければならないと思います。笠間はどちらかというとイベント型観光でしたので、通年型観光への取り組みをしていくと同時に、定期的にイベントを開催し、話題性を発信していくこともしていかなければならないと思っています。

19 国道50号の大壺について (7/4)

【意見】 国道50号の大壺を笠間駅前に移動する計画はあるか。

【回答】 ありません。少し見づらいのですが、現在の場所からお金をかけて移設する考えはあり

ません。

20 つつじ公園のつつじについて (7/4)

【意見】つつじ公園のつつじが古くなってきたので、一株運動を行って植え替えをしてはどうか。

【回答】今のところ計画はありません。仮に新しい株に植え替えるということはあっても、新規に造成してつつじを植えるという考えはありません。

つつじも古くなってきましたが、桜の方が深刻です。佐白山、北山、愛宕山の桜が老木化し、元気がない桜が増えてきています。

21 桜について (7/4)

【意見】国道 355 号のレストランさんてすから愛宕山への道に桜を植えることはできないか。

【回答】現在は、国・県・市で路肩に桜を植えることは認めていません。街路でも桜を植えると虫がつくので、地元の方から好まれません。

22 観光客の集客について (7/8)

【意見】観光客の取り込みは市の発展に影響すると思うが、今後はどのように考えているのか。また、イベント時の交通渋滞対策はどうなっているのか。

【回答】配布資料の「ミニ統計かさま」にもありますとおり、平成 23 年度は県内第 2 位という観光客数でした。今後、笠間市のまちづくりに「観光」は切り離せない主要な課題だと思っています。県内でも、観光客の抱え込み競争が激化するなか、独自の取り組みとして「笠間発見伝」という、笠間でしか体験してもらえないことを旅行パックとした事業展開を行っています。笠間には笠間焼や稲荷神社がありますが、稲荷神社前の通りや芸術の森公園前の通りをおしゃれにするなど、観光客の滞留時間を長くしていく取り組みが必要だと思っています。友部地区には北山公園のバーベキュー場がありますが、老朽化しているので整備していきたいと考えています。

笠間の陶炎祭（ひまつり）の交通渋滞については、3 年ほど前から友部北口からシャトルバスを出したり、今年は畜産試験場跡地を借りたりと混雑緩和の取組みをしたので去年ほどの混雑ではありませんでした。しかし、畜産試験場跡地はいつまでも使えるわけではないので、交通渋滞対策は今後も、大きな課題です。

23 農業の法人化について (7/30)

【意見】少子化のため、農家では後継者がいない。しかし実は、若い人で農業をやりたいという人はたくさんいる。笠間市の人口減少に歯止めをかけるには、若者が仲間をつれ、笠間にやってきて法人化された農業をやっていくことがよいのではないか。耕作放棄地を含めて、まだまだ農地が余っていると思う。若者のため、農業の株式会社を作ってもらいたい。

【回答】人口減少は、合併時と 23 年の秋で比べると、2,400 人減少していて、一番減少の激しい地区が旧笠間地区です。友部地区はほぼ横ばいで、岩間地区がゆるやかな減少といった状況です。定住化対策、少子化対策といろいろ行っていますが、日本全体が少子高齢化という中ではこれらが V 字回復するのは、非常に厳しいと思っています。

どの世代が減少しているのかということ調べてみると、減少の大きな理由は、今、出生数は約 600 人、死亡者は約 900 人でこの差が大きな理由となっています。そして、高校卒業後から、25・6 歳の若い世代が、市外へ流出しています。大学で市外へ行き、そのまま市外で勤めるということもありますので、その対策として雇用対策は重要だと思っています。

市では、企業誘致にも取り組んでいます。大企業はありませんが、従業員が 20 人、30 人といった企業が合併後も進出してきています。面積でいうと、約 7ha 広がっています。ただ、倒産し

たり廃業したりする企業もあります。新たに農業を起こすことは雇用が発生しますので、企業誘致と同じ効果があると思っています。核となる法人化を進める農業者は積極的に支援していこうと思っています。自治体によっては、農業公社など役所が公社をつくって、それらが地域農業の担い手として動かしているところもあります。

24 農業の施策について (7/30)

【意見】農業が笠間市の重点施策となり3年目に入ったが、うまく機能した施策はあるか。

【回答】農産品のブランド化やPR活動はうまく進んできました。しかし、農繁期の支援や耕作放棄地対策がうまくいっていません。

25 兼業農家への支援策について (7/30)

【意見】笠間の農家は90%が兼業農家なので、耕作放棄地対策のためにも兼業農家に対し、支援策を講じてほしい。

【回答】今後の農業の展望として、兼業農家から、専業農家・法人化へといった集約化にどうもっていくかだと思っています。農林水産省で「人農地プラン」という、地域農業の将来について話し合うという計画が始まり、笠間市でもスタートしています。農地と農家を集約していくことが必要な時代がきたのだと思います。

26 申請の簡素化について (7/30)

【意見】戸別保障制度等の申請の簡素化はできないのか。

【回答】申請の簡素化は、市全体の課題だと思います。市の手続きで簡素化できるものは進めていきたいと思いますが、農業関係については国の制度によるものが多いので、簡素化が難しいのが実情です。

27 耕作放棄地の利活用について (7/30)

【意見1】農家からのアンケートには、跡継ぎがいなくて不安との意見があった。市では何か対応策はないのか。

【回答1】田んぼや畑を持っている方が、子どもがいなくて、子どもが戻ってこないとかで、農地をどうするかという心配事だと思います。土地を貸してもよいけれども、相手の身元がわからないことには、賃借の話が進まないと思います。そういった時に、仲介等の役割を担うところが市や農業委員会だと思います。しかし、あまり機能していないことが実情です。

【意見2】農業委員会では、法人化して農業をやるといって若い人に耕作放棄地を紹介した。市でも同様のことを行っているのだから、市と農業委員会で連携できないか。

【回答2】農地利用集積化円滑事業という市の事業と、農用地利用集積計画という農業委員会の事業があり二本立てとなっています。国の制度なので、制度上一本化できません。ですが、地域の中で、農地に関する情報を受け止めて、市と農業委員会で情報交換をしていきたいと思っています。そして、農地賃借の仲介をやっていきたいと思っています。市と、農業委員会が連携していくために、パンフレット等を使って農家の方にPRをしていきます。

28 耕作放棄地と販売経路について (7/30)

【意見】耕作放棄地解消のため、畑作戸別保障を利用してそばを作ったが、そばの生産が過剰のため倉庫に余って販売できない状況である。耕作放棄地の解消には販売が足かせになってしまう。

【回答】農業センサスによると、平成17年の耕作放棄地は笠間市全体で792haです。5年後の2010年は769haとなっています。耕作放棄地が減っているのは、道路や宅地化により、農地自体

が減っているためだと思います。

現在、農業公社について勉強しています。県内外の先進地へ勉強に行っているところです。農業の雇用をどう創出していくかということを含めて、勉強していきたいと思っています。

29 直売所について (7/30)

【意見】インターの近くに大きい直売所などがあれば販売促進になるのではないか。例えば土日祭日のみでもよいので、笠間市は交通アクセスがよいので、観光を含めて検討をしてほしい。

【回答】検討してみたいと思います。

30 ミニ統計笠間について (7/30)

【意見】ミニ統計笠間に一人当たりの所得が県内 35 位とあるので、データを公表するだけでなく、いかに所得がアップするかを考えてほしい。

【回答】データを公表することによって自分の市にいいところがあるということ認識してもらおうという意味で配布をしています。内容については、低い順位を上げていくことは、我々に課せられた課題なのかと思います。データを見ると市の現状や問題点が浮き彫りになってきます。

32 栗について (7/30)

【意見】栗は、1Kg100 円では採算があわない。何かよい手法はないのか。

【回答】作物に付加価値をつけていくことが生産者の利益になってきますので、栗については付加価値をつけるための商品開発などの取り組みを行い、一定の成果はでていていると思います。栗のほかにも市内にはいろいろな農作物がありますし、酪農などもありますが、栗を取り上げるのは、耕作面積が県 1 位ということもあり、PR しやすいからです。何か一つをまず取り上げることが笠間の農業のイメージアップにつながるということで進めています。他の作物を否定しているわけではありません。我々もがんばりますが生産者の方々にもがんばっていただきたいと思っています。

33 芋ほり体験について (7/30)

【意見】農業委員会で耕作放棄地にさつまいもを植えたので、各小学校に芋ほり体験をさせたらよいと思う。市長から各小学校へ声をかけてもらえないか。

【回答】教育委員会から近くの小学校などに声をかけてみます。

34 農作物の販売経路について (7/30)

【意見】作物を作っても売れないので、販売経路を作ってほしい。販売組織体制を作ってほしい。

【回答】独自の販路拡大は難しいと思いますので、大手との連携も必要かと思います。栗はイオンと提携させていただきましたので、そういったところに他の作物も参入できればと思います。

35 水戸線の利用拡大について (8/21)

【意見】北関東道路が開通して、水戸線沿線の人口が減り衰退が心配されるので、水戸線のスピードアップと乗客の増加が必要だ。また、駅近くに定住者が増えるためには、水戸線沿線に家や事務所が建てられるようにするべきだ。学校の統廃合についても、今後若い夫婦が家を建てるために、水戸線沿線の小学校、南小、稲田小、宍戸小、大原小を廃校にしないでほしい。

【回答】水戸線の利用者の拡大は必要だと思います。現在、市では初めて、JR に市の職員を派遣し、観光面での連携ということで JR と取り組みをさせていただいています。

小学校の統廃合については、避けて通れないところですので、統廃合については進めさせていただく予定です。

36 岩間インター付近の工業地域について (8/21)

【意見】岩間地区の工業専用地域は道路、水道、排水が整備されていないので、企業が進出したくてもできない状況である。茨城空港を利用する企業が進出しやすくするために、県に道路の整備などを要望し、県と市と共同で進めてはどうか。

【回答】岩間インター周辺は、企業からの希望が多い地域で、道路整備を進めていかなければならない面はありますので、今後進めていきたいと思います。

37 山の荘について (8/21)

【意見】山の荘がこのまま老朽化したらどうするかという不安があるが、市として、購入の予定はあるか。

【回答】基本的に個人所有の建物ですので、市が買い取って使うことはありません。また、建物自体がもう使える状態ではないと聞いています。ただ、住民の皆さんから、落ちてきたらどうするのかという不安視する声が出ておりますので、市としては、所有者に何らかの対応をお願いしたいということは伝えてあります。

38 笠間市の観光について (8/21)

【意見】笠間には、県内有数の観光資源がある。観光に優先的に力を注ぎ、韓国や中国などから観光客が来るようにしてほしい。

【回答】積極的に交流人口の拡大を図っていききたいと思います。合併当時と平成 22 年時点とで対比すると、人口や事業者などマイナスの面が多いのですが、唯一観光客は増えていますので、今後もイベントなどの実施はしていきたいと思います。ハード面については、井筒屋と稲荷門前通りの整備計画は同時進行で進めていきたいと思います。

39 イベント情報について (8/21)

【意見】市内でいろいろなイベントを開催しているが、同じ市内なのに、開催しているイベントがわからなかったりする。情報の共有できる場所はないだろうか。

【回答】役所の情報発信としては、ホームページなどがあります。また、NHK データ放送でも、市内のイベントの情報を提供していますので、ご覧ください。

40 農業振興地域について (8/21)

【意見】農業振興地域に店舗を建てたいと思っても、建てられないので、農用地区域の除外をすることはできないか。例えば、道路に面したところ何メートルなどの基準をつくってほしい。

【回答】農地を所有する側からすると、農業振興地域は農地を守ることが大前提です。しかし、場合によっては、柔軟に対応していく必要があると思っています。即答はできないので、調べてみます。すべての農業振興地域を守っていくよりも、今後も残すところとそうでないところと、メリハリをつける必要があると思います。

41 電気の供給について (8/21)

【意見】電気の供給については東京電力以外にもある。例えば、つくば市では株式会社エネットから電気を供給している。日本ロジテック協同組合という電気を供給するところもある。笠間市では、電気の供給についてどう考えているのか。

【回答】市の施設はすべて東京電力です。自治体によっては、民間の電力会社、いわゆる PPS に切り替えて年間の電気量の圧縮を図っているところもあります。市でも検討をしていますが、まだ決定には至っていません。民間の電力会社の電力供給にも限界があり、需要と供給のバランス

で、現在よりも安くなるとは限らない状況ですので、今のところ東京電力にしています。

太陽光パネルの設置について、市に設置できる場所はないかと問い合わせが来ています。市の施設の屋根や空き地などの情報提供をしています。本格的に行うのは笠間東工業団地の中で 20 年契約で民間業者が設置し、市の負担はありません。市の公共施設に限らず、民間でもそういった土地があれば情報提供をお願いします。

42 情報の提供について (8/21)

【意見】 市役所企画政策課で 5 年に一度事業所統計をとっており、商工会ではその調査に積極的に協力しているのだが、商工会の会員を増やすために、集計した資料を見せてほしいと総務課に聞いたところ、個人情報なので開示できないと言われた。会員を増やすために使用するだけなので、開示してほしい。

【回答】 市役所としては、統計調査の協力をいただくときに、他には提供しないということで情報をいただくので、それを提供することはできません。